白糸の滝

白糸の滝は、高さ約20メートル、幅約150メートル以上に渡り馬蹄形に広がる崖面の各所から湧出した水が、幾筋もの白い糸を垂らしたように流れ落ち、滝となったものである。白糸の滝周辺の地質は、下部に不透水層である古富士泥流堆積物があり、上部に透水性のある新富士火山の白糸溶岩流がある。富士山麓に降った雨水は、上部の溶岩流を透過し、下部の不透水層との境目を流れ下っていると考えられている。白糸の滝は、両方の層が崖面として露出しており、両方の層の境目や上部の溶岩流の間から水が湧出している様子が確認できる。

白糸の滝（平成30年撮影　航空写真）

修行の場としての白糸の滝

白糸の滝には、江戸時代中期以降、江戸で盛んになった富士講の祖「長谷川角行」にまつわる伝承がある。角行は白糸の滝で垢離をとり修行を行ったとされ、富士講の信者の中には白糸の滝を訪れる者や、白糸の滝で修行を行う者がいたことが知られている。幕末の資料には、白糸の滝で垢離をとり修行を行った富士講の信者の記録がある。

指定地内には富士講の信者が建てた石碑があり、「仙元大神」と記されたものや、「食行身禄」と記されたものがある。

※垢離…水に入水し、身を清めること。

白糸の滝にある「食行身禄」碑
1832年（天保3年）百遠忌供養碑

【アクセス】

〒418－0103　静岡県富士宮市上井出273－1

JR身延線富士宮駅から
車で約30分

東名富士ICから
車で約40分

発　行：富士宮市富士山世界遺産課
問合せ：平日のみ　0544-22-1111（市役所代表番号）

世界遺産 富士山

構成資産

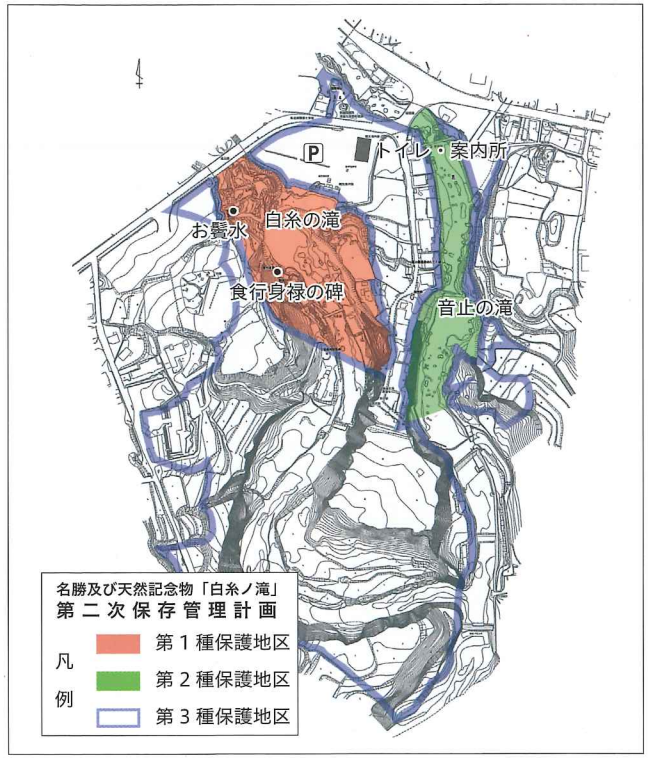
白糸ノ滝
（しらいとのたき）

白糸ノ滝

「白糸ノ滝」は、国指定（1936年（昭和11年）指定）の名勝及び天然記念物として、「白糸の滝」と「音止の滝」を含む周辺地が指定されている。そこで、滝そのものを示す場合は「白糸の滝」と表記し、指定文化財として指定地全体を示す場合は「白糸ノ滝」と表記し、区別している。

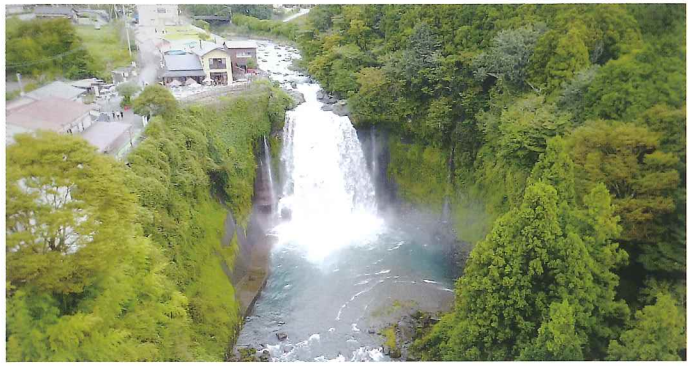
白糸の滝は、富士山の湧水が幅約150メートルにわたって湧出しており、源頼朝が富士の巻狩のおり「この上にいかなる姫やおはすらん　おだまき流す白糸の滝」という和歌を詠んだと伝承される（頼朝に仮託しての作か）など、古くからその見事な眺めが人々に愛されてきた。音止の滝にも、富士の巻狩に関連する曽我兄弟の仇（あだ）討ちにまつわる伝説がある。

また、戦国時代末から江戸時代初期、富士講の開祖とされる長谷川角行（はせがわかくぎょう）が修行を行った地とされ、富士講を中心とした人々の巡礼・修行の場となった。



音止の滝

音止の滝は、「音無の滝」とも呼ばれ、白糸の滝と台地を隔てた東側に位置する。主瀑は落差約25メートルを流れ落ちる芝川の本流であり、轟音を響かせている。崖面では、白糸の滝同様の地層が観察され、湧水が見られる。



音止の滝（平成30年撮影　航空写真）

音止の滝の伝説

今から800年も前の鎌倉時代、将軍源頼朝が富士山の麓で巻狩を行った。その最中に曽我兄弟によって巻狩に参加していた工藤祐経が殺されるという大事件「曾我兄弟の仇討」が起こった。

仇討の前、曽我兄弟が滝の近くで討ち入りの相談をしていると、ゴーゴーと滝の音が響き、声がさえぎられてしまった。兄弟が「心無しの滝だなあ」とため息をつくと、不思議にも激しい滝の音がぴたりとやみ無事相談ができた。この伝承から「音止の滝」と呼ばれるようになった。

お鬢水（びんみず）

お鬢水は、「鬢撫水（びんなでみず）」とも呼ばれ、白糸の滝の崖上にある。お鬢水は、湧水が池となったものであり、その水は白糸の滝の一部として流れ落ちている。

お鬢水（びんみず）

お鬢水（びんみず）の伝説

鎌倉時代、将軍源頼朝が「富士の巻狩」を行った際、頼朝が白糸の滝の上にある岩穴の湧水で、鬢のほつれを直した。それからのち、この湧き水を「お鬢水」と呼ぶようになった。

白糸の滝　古写真